

【今日の説教から】

イエス様はかつて弟子たちにこういわれました。「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

そして聖霊が下り、ガリラヤ出身の弟子たちは、炎のような舌を受けて、聖霊が語らせるままに世界隅々の言葉で神様の大きな働きを語りました。

驚き惑う人たちを前に、ペテロは説教を始めます。

「主の名を呼び求める者は、みな救われる」「イスラエルの人たちよ、今わたしの語ることを聞」いてください。

イエス様がなさった力ある業と奇跡としるしを思い出してください。この方こそ神様から遣わされた方。この贖いは神様の計画と予知によるものではあるが、あなた方は不法に十字架に殺したのです。しかし、神様はこのイエス様を死の苦しみから解き放ってよみがえらせました。イエス様が死に支配されているなど、そんなことは不可能です。

ダビデも言いました。彼はいつも主を目の前に見て、心は動揺しなかった。心は喜び、舌はさらに喜び、肉体は望みのゆえに生きると。ああ、私の魂を黄泉に捨て置かず、朽ち果てさず、命の道を示し、喜びに満たしてください。彼はイエス様のたどられる道を知り、自分の慰めとしました。

この御名、主イエス様の御名を呼び求める者は、今日も救われます。この方こそ命の道、望みの巖なのです。困難の世にありて、喜びの舌をもってこの御名を告げましょう。

皆様おはようございます。

先週私たちはペンテコステの礼拝を迎えました。

「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」とのイエス様のお約束が成就しました。

そして聖霊が下り、ガリラヤ出身の弟子たちは、炎のような舌を受けて、聖霊が語らせるままに世界隅々の言葉で神様の大きな働きを語りました。

驚き惑う人たちを前に、ペテロは説教を始めます。

「主の名を呼び求める者は、みな救われる」「イスラエルの人たちよ、今わたしの語ることを聞」いてくださいと。

ペテロは、ナザレのイエスという方がどのような方であったのかということイスラエルの人たちに伝えようとしています。聖霊によって語られるこのことは、大変に重要なことです。

2:22 イスラエルの人たちよ、今わたしの語ることを聞きなさい。あなたがたがよく知っているとおりに、ナザレ人イエスは、神が彼をとおして、あなたがたの中で行われた数々の力あるわざと奇跡とするしにより、神からつかわされた者であることを、あなたがたに示されたかたであった。

イエス様によって現わされた数々の力ある業、奇跡とするしは、他ならない、神様がイエス様を通してあなた方の中で行われたことなのだとペテロは語りました。あなた方が真ん中でイエス様が、あなた方が見聞きする中で、神様ご自身がイエス様を通して奇跡をも、不思議をも、しるしをも起こされたのだ、起こりえないことがいろいろと起こったことを思い起こし、このイエス様の復活と聖霊降臨による出来事と連続して考えて、素直にすべて神様の御業であったことを信じなさいとペテロは迫ります。

私たちはどうでしょうか。私たちの間で起こっていることは単なる偶然なのでしょう。それとも何も良いことは起こらず、悪いことばかりが続いて、神様など信じられないと思われるのでしょうか。

「ナザレ人イエスは、神が彼をとおして、あなたがたの中で行われた数々の力あるわざと奇跡とするしにより、神からつかわされた者であることを、(神様が)あなたがたに示されたかた」なのです。

神様はイエス様を通して、数々の力あるわざと奇跡とするしをお示しになりました。ある人々はそれをまやかしたと信じませんでした。

ペンテコステの日、ガリラヤ出身の弟子たちが聖霊により習いもしなかった多くの国々の言葉で全能の神様の偉大な業を語った時、ある人たちは「新しい酒で酔っているのだ」と屁理屈をこねて真実に向き合おうとはしませんでした。

「主の名を呼び求める者は、みな救われる」この御言葉は、今日も明日も、とこしえに真実です。

2:22 イスラエルの人たちよ、今わたしの語ることを聞きなさい。

あなたがたがよく知っているとおりに、ナザレ人イエスは、神が彼をとおして、あなたがたの中で行われた数々の力あるわざと奇跡とするしにより…

神様がイエス様を通してなされた力ある業は、あなた方が良く知っている通りです。あなた方はそれを知らないのではなくて、それをよく知っているのです。よく知っているのにもかかわらず、それは人の力を超えたものであり、そのことがこのイエス様の手によって、彼の力によってではなくて、彼を遣わされた方の意思によってそれがもたらされたにもかかわらず

らず、

2:23 このイエスが渡されたのは神の定めた計画と予知とによるのであるが、あなたがたは彼を不法の人々の手で十字架につけて殺した。

そのようにして、ただ神様によって遣わされたイエス様を、あなた方イスラエル人は彼を不法のもとに、犯罪のゆえに、神なく律法なき異邦人のようにしてイエス様を十字架にかけたのですとペテロは語ります。その十字架による贖いがすべて神様の定めた計画と予知、目的によったものであろうとも、その罪が正当化されるものではありません。

私たちにとって、イエス様とはどのようなお方なのでしょう。そして神様がイエス様をお遣わしになられ、教え、奇跡をおこない、十字架の贖いまでして私たちのために切り開いてくださった道を知った私たちは、イエス様によって神様が彼をとおして、私たちの中で行われた数々の力あるわざと奇跡とするしとをよく知っている私たちは、どのようにしてイエス様に向き合うべきなのでしょう。神様がイエス様を通してそこまでして私たちに語り掛け、働きかけてくださるのならば、私たちはどうして恐れたり、悲観したり、悩んだりする必要があるのでしょうか。しかしイスラエル人は、神の民、選民、信じる民でありながら、神様がイエス様によって手を差し伸べた、その手を払いのけ、神なき民のように退け、拒絶し、迫害し、痛めつけ、十字架に吊るし上げたのです。私たちはどうなのでしょう。信じる民として、信仰のうちに進んでいるのでしょうか。それとも心をかたくなにして、自分の見るところにより結論を下し、神様など私たちのことを顧みてはくださらないと結論付けるのでしょうか。

2:24 神はこのイエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせたのである。イエスが死に支配されているはずはなかったからである。

しかし神様はイエス様を死の苦しみから解き放ってくださいました。そしてよみがえらせてくださいました。イエス様が死に支配されているはずはなく、イエス様が死によってつかまれているということなどあり得ないことで、不可能なことなのです。

神様から遣わされ、神様によって定められたことを語り行う証の道。そこには喜んで受け入れられる出会いもあれば、拒絶と迫害の出会いもあります。生き地獄を味わい、奈落の底に落とされるような苦しみを味わうことがあるかもしれません。しかし神様はその苦しみから解き放ってくださいます。

ヘブル 12:4 あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。 12:5 また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れている、／「わたしの子よ、／主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。 12:6 主は愛する者を訓練し、／受け入れるすべての子を、／むち打たれるのである」。 12:7 あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。 12:11 すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。

イエス様は何の罪も犯されませんでした。身代わりのゆえに死に引き渡されはしましたが、正しいお方をいつまでも死の世界がとどめておくことが出来るでしょうか。いいえ、それはできません。それは不可能なことです。

イエス様の贖いにより赦され清められた私たちが、赦されて救われたのちにいつまでもまた罪に留まることが出来るでしょうか。それもまた不可能なことです。

イエス様の身代わりによって救われた私たちが、身代わりになってご自分を捨ててくださった方へのご恩を忘れ、ただ罪を始末して下さってありがとう、おかげで自由になれました、はいさようなら、あとは私たちの自由にいかせていただきますと言いうことが出来るでしょうか。いいえ、それは不可能です。いや、それは出来るかもしれませんが。しかしそうするのならば、私たちは本当にイエス様につながってはならず、イエス様の復活の命には生きていないのです。

2:25 ダビデはイエスについてこう言っている、『わたしは常に目の前に主を見た。主は、わたしが動かされなないため、わたしの右にいて下さるからである。

2:26 それゆえ、わたしの心は楽しみ、わたしの舌はよろこび歌った。わたしの肉体もまた、望みに生きるであろう。

2:27 あなたは、わたしの魂を黄泉に捨てることをせず、あなたの聖者が朽ち果てるのを、お許しにならないであろう。

2:28 あなたは、いのちの道をわたしに示し、み前にあって、わたしを喜びで満たして下さるであろう』。

ダビデもまた様々の苦しみにさいなまれました。死の危険をさまよい、その苦しみを味わうようなこともありました。また彼には内なる弱さと巨大なる罪の負債がありました。その中で彼はイエス様に逃れたのです。

2:25 ダビデはイエスについてこう言っている、『わたしは常に目の前に主を見た。主は、わたしが動かされなないため、わたしの右にいて下さるからである。

常に目の前に主を置く。これが私たちキリスト者の喜びです。そのようにする信仰者のために、主は私たちが揺り動かされ、動揺することがないように私たちの右にいてくださるのです。

2:26 それゆえ、わたしの心は楽しみ、わたしの舌はよろこび歌った。わたしの肉体もまた、望みに生きるであろう。

心も、舌も、肉体も。喜びと希望に守られています。

沈みやすい私たちの心は主が私たちの右にいて、私たちが動かされることがないように常に守っていてくださるゆえ、喜んでいきます。そのことが一度だけではなくて、常に常に感じられるので、その感謝と喜びは、日々増し加わり、私たちの舌には喜びが常に湧き上がって賛美と感謝になります。私たちの肉体もまた、望みに生き、それは失望とは正反対のうちに生きることが出来ます。

2:27 あなたは、わたしの魂を黄泉に捨ておくことをせず、あなたの聖者が朽ち果てるのを、お許しにならないであろう。

ダビデは自らを神様がお見捨てになられないとの信仰をここに語っていますが、期せずして、この言葉がイエス様のことを予言していると気付いていたのでしょうか。いや、彼はイエス様を遠く先に見つめていました。「わたしは常に目の前に主を見た。主は、わたしが動かされなため、わたしの右にいて下さる」そしてイエス様にあつて神様は「黄泉に捨ておくことをせず、あなたの聖者が朽ち果てるのを、お許しにならない」との遙か先の予言を確信して自分の身の守りをも確信したのではないのでしょうか。ダビデがイエス様の誕生の千年前にイエス様を主として見て、目の前に見ていたということは、本当に不思議なことです。これは神様からの啓示という他はありません。しかし彼は、神様のお導きによって千年も先に起こることを知らされ、そこに望みを置いていたのならば、私たちにとってイエス様に望みを置くということはなんとしやすいことなのかと思います。二千年の前のこととはいえ、私たちは時代時代のキリスト者たちがどんなに真剣にこの方を待ち望み、そして救いと慰めを得たという証をもっています。そうでなかったならば、二千年を経た今日、どうして世界にこの信仰が残っているのでしょうか。

2:25 ダビデはイエスについてこう言っている、『わたしは常に目の前に主を見た。主は、わたしが動かされなため、わたしの右にいて下さるからである。』

2:26 それゆえ、わたしの心は楽しみ、わたしの舌はよろこび歌った。わたしの肉体もまた、望みに生きるであろう。

2:27 あなたは、わたしの魂を黄泉に捨ておくことをせず、あなたの聖者が朽ち果てるのを、

お許しにならないであろう。

2:28 あなたは、いのちの道をわたしに示し、み前にあって、わたしを喜びで満たして下さるであろう』。

このイエス様こそ今日も変わらない私たちのいのちの道です。神様は、ダビデに不思議な方法で命の道を知らされたように、私たちにもこのいのちの道をお知らせくださいました。そして主は、ご自分の御前に私たちを喜びで満たしてくださいます。私たちは神様の前で喜びに満ち足りるのです。

主の御名を呼び求める者は皆救われます。その前に、主が命の道であるキリスト(救い主)・イエスを私たちにお示しくださいましたことに感謝し、私たちもこのいのちの道をお知らせしたく願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「主の名を呼び求める者は皆、救われる」。私たちの命の道としてイエス様は生まれ、遣わされて語り、力ある業をもってそれを確かに示し、人の手によって十字架につけられましたが、それは神様のご計画の通りでした。神様は御子を死の中に、死者の世界に捨て置かず、復活させられました。この主が私の右におられますから、私は決して動揺しません。私もダビデ同様、イエス様によって命の道を得ることが出来ます。心は喜び、舌には賛美と感謝が湧きあがり、体も希望のうちに生きます。どうぞこの希望の道、命の道を証しさせてください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン